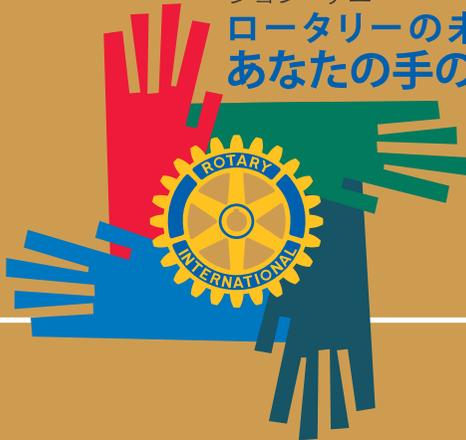


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
来賓卓話「これからの北海道」
道議会議員 石塚 正寛 様
 - 次週予定
創立記念夜間例会
- 会員誕生日
2月10日 松村 孝二
- ご夫人誕生日
2月13日 高田美保子

No. 2406

第29回 2月10日

出席報告

前例会

会員総数……………44名
出免会員……………4名
出免出席……………0名
出席会員……………28名
出席率……………70.00%

前々会

第26回 1月20日

出席会員……………33名
メイクアップ……………3名
修正出席率……………80.95%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



会長報告……………

- 2月1日に第8回定例理事会を開催し、2月例会プログラム、1月の収支決算、ハイチ地震義援金の件、地区WCS委員会への推薦の件について承認いたしました。
- そらぶちキッズキャンプが2月1日知事の認定を受け、税制上の優遇措置がある公益財団法人となり、本格的な開園に向け大きく前進しました。
- 2011～2012年度ロータリー財団国際親善奨学生の募集、推薦の案内が届いております。締め切りは4月13日です。



幹事報告……………

- 1) 羽幌RCより例会変更のお知らせが届いています。2月25日は夜間例会のため、初山別温泉、午後7時からです。
- 2) 妹背牛RCより例会変更のお知らせが届いております。2月23日は深川RCとの合同夜間例会のため、午後6時、プラザホテル板倉です。
- 3) ロータリー手帳の申し込みを受け付けております。1冊630円、送料別です。希望者は幹事までお願いします。

会報受領先

- ・赤平RC No.2377号～No.2389号
- ・羽幌RC No.1481号～No.1484号
- ・深川RC No.2475号～No.2477号

- 芦別RC No.2528号～No.2531号
- 妹背牛RC 今年度No.24号～26号

ゲスト

留萌市長 高橋 定敏様

委員会報告

社会奉仕委員会 大嶋委員長

本日皆様にご協力いただいた、ハイチ地震義援金が27,000円あつまりました。ご協力ありがとうございました。

ニコニコBOX

- ローターマージャン大会優勝 関野会員
- マージャン大会準優勝 山本会員
- マージャン大会1位 渡邊会員

前 回	603,000円
今 回	6,000円
累 計	<u>609,000円</u>

プログラム

「これからの留萌市」



留萌市長 高橋 定敏様

本日は大変な吹雪模様になりました。これがまさに朔風、北風の中でも本当に厳しい、風が強いこの朔風に抗して、この風に逆らって、立ち向かってのみ、未来が開ける。この様な思いを持ちながら、今朝、猛吹雪のなか役所まで歩きました。ただ、この吹雪の雲の上には燦然と太陽が輝いているはずでありまして、今年の歌会始めのタイトルが「光る」という言葉でした。今年天皇陛下がどの様な歌をお読みになるかと思っていましたら、「木漏れ日の光を集めて落ち葉敷く、小道のまなか草あおみたり」こう言う句を歌っておりました。まさに、枯葉が敷きつめられているその中に、木漏れ日

の光が当たる。光の当たる所から若葉というか、青葉がもう準備して育っているよ。という歌だと思いました。私は出来るだけ毎年、どういう思いで披露されているのかという事を、大切にしている一人です。宮中参賀での陛下のお言葉にも、国民のしあわせ、そして世界の平和を思う気持ちが受け取れます。

私どもはこの国の姿、この街の姿もそうですが、もう一度考えてみましたら、政治も大きな流れがあり、私が市長に就任している4年の間に、なんと総理大臣が毎年変わる時代となりました。国の最高責任者がこんなに変わる国家というものは、やはり珍しい事だと思います。しかし、国民は安定した想いは持っており、雇用関係は大変厳しい、経済は廻らなくて仕事が辛い、色々な厳しい状況がありますが、まだまだ日本人の想いとして、この国の姿、この国を想う、興国の精神は大切にされていると思います。ですから、今回の中国の副主席が来日された時に色々な話がありました。やはり私達も日本国民としてもう一度この国のありよう、政治のありようを、しっかり意識しなければと思っておりますし、この地域の経済を見るときに、この街の百年の経済がどうであったのかという、先人の想いというものもしっかり受け止めなければと思っております。

特に、今年は留萌駅が開設されて留萌深川間の鉄道が始まって百年になります。留萌駅では11月にセレモニーを予定しております。もう一度、明治43年からこの街がどういう歴史を歩んできたのか、百年前のこの街の姿がどうであったのか、たしか、17,790人くらいだったと記憶しています。その生活はどうだったのか、留萌港の築港事務所が開設され、留萌港が着手されたのも明治43年だったと思います。来月3月には留萌の築港事務所のパネル展が留萌駅をお借りして進めようと思っております。さらには、大和遠州流の蓼沼紫英さん、大和遠州流は小堀遠州流ということで、第18代宗家として留萌駅が出来た年の11月に列車で留萌を訪れたのが最初のようにあります。そして大和遠州流として留萌、札幌と広めていったという事ですから、

今年の6月に全国の大和遠州流の方々が蓼沼さんを偲んで留萌に集まり、大茶席が設けられると聞いております。

考えますと、私たちの先人で五十嵐億太郎が百年前、にしん漁で朝鮮まで漁場を広げていっておりました。サハリンから朝鮮までにしん漁をしており、そして東京においても、旧丸ビルに当時、北海道からにしん漁で大金をつかんだ人々が何人かこの丸ビルに事務所を持っていたその中の一人です。棧橋、そして鉄道路線を敷く、ちょうど恵比島から昭和炭鉱、アサノ炭鉱の石炭の引込み線工事については五十嵐億太郎さんが実際に、当時の鹿島建設と信用請負という事で、入札せずに工事をさせたという事が言われております。五十嵐億太郎翁がどういう留萌を夢見て街づくりをしたか、また明治43年の帝国議会で留萌港の着工を決めたのですから、国家戦略としてこの留萌港の位置付けを、もう一度しっかり、私たちも港町留萌を意識していかなければなりません。

にしん漁で百年前に朝鮮まで行っていました。しかしその50年後には、にしんは姿を消しました。昭和30年前半、昭和32年ころ稚内にソ連産のにしんが初めて輸入され、それを当時の第一水産加工組合、後の井原水産、加藤淳一さんの加藤水産が数の子の輸入を始めたのが最初と聞いています。当時数の子ですから、血にそまって真っ黒の数の子が来たという事で、私も小学生でしたが記憶に残っております。昭和32年ころから全くにしんが獲れず、井原水産の社長さんなどが、カナダやアラスカへと世界へ出たのが昭和42~43年頃ですから、今から40年位前の事です。にしんの歴史百年の内、50年50年の大きな節目の中で、この街の経済が大きく変わってきたのかなと思います。にしん漁が無くなり、底引きが無くなり、疲弊しているこの留萌に、やはり経済を回すのは公共事業しかありませんでした。私も政治の道というのは中川一郎先生との出会いからで、昭和46年から長い間携わってきた事になります。北海道全体を考えても、留萌地域を考えても、公共事業で回していこうと考えていましたが、ここ10数年を考え

ますと、この地域でも公共事業は半分位になってしまいました。

新しい政権が生まれてコンクリートから人へという事ですが、ここ10年間で先ほど言いましたが公共事業は激減しておりますから、これ以上公共事業が減るといのは大変厳しい状況に陥ります。しかし、今の政権に期待している所もいくつかあります。それは、今まで補助金で地方にさせていただいた仕事を、その地域、地域が独自に雇用政策として仕事を見出してほしいとの事を掲げた点で、自民党時代にも臨時交付金という形で昨年度というか今年の3月までの仕事で約2億円位の仕事がありましたが、残念ながら私どもの公共施設があまりにも老朽化していた事から、ほとんどの臨時交付金は雨漏りを直すとか、ボイラーを修理するとかの事業になってしまいました。いずれにしても、地方自治体が困っている事がある程度修復出来る予算でしたので私どもは喜んで使わせていただきました。今新たな政府の二次補正でも約8千万円ほどが交付されますので、きめ細かな部分で使わせていただきます。

いずれにしても、私は今までの4年間の中で、財政再建をしなければならぬと思っておりましたので、夕張のような団体になってしまうと、将来の子供たちに対して申し訳ないと10年、20年のスパンで考えたとき、今思い切って財政再建をしっかりやろうという部分がありました。お蔭様で、プールとスキー場の廃止で厳しいご意見をいただきましたし、中でも中学生の子供からの手紙をいただきまして、「いっその事、夕張のように財政再建団体になったほうが良いのではないかと夕張は財政再建団体になってもプールはやっているから。市長さんは知っていますか」という手紙をいただきました。でも私は、この街の財政を守り、先人が築いたこの街を次のステージにしっかり届けなければならないと思っていますし、お蔭様で市民の協力もいただいて財政再建が計画以上のテンポで進んでいます。また国も政権が変わり今言いましたように、交付税の見直しがあり、地方に厚くという部分もございますので、今まで以上に

交付税もきております。財政再建はある意味で市民の方々との約束とおりに進んでいると思います。

留萌市立病院ですが、病院経営というのはお医者さんの問題で、全国どこへ行っても苦労しているようです。留萌市立病院については笹川院長と話しながら進めておりますが、やはりここに来て、循環器のお医者さんが10月から予定通り着任していただけなかったのが響き、ちょうど6ヶ月間循環器の先生2名欠員していた部分で病院経営にモロに響いて、影響がでています。しかし、想定していなかった脳外の先生が2名になり、順調に手術が出来るようになり、眼科の方も旭川医大の支援をいただき、手術出来る体制が整っておりますので、この3月までに、病院全体で全力をあげて財政再建の約束した数字に近づけるように、私としても努力していきたいと思っております。

留萌の将来を見たとき、経済の進む方向として、先ほど言った通り、先人は朝鮮やカナダ、アラスカ、アイルランドとにしんの買い付けをしました。今、そういう形での行動が難しければ、今この地にある食材をしっかりと活かす事。ご承知の通り、留萌のお米は3年連続金賞という賞をいただいております。この留萌の農業、留萌の漁業をもう一度、地場の資源をしっかりと理解して、この食材をどう活かすか。この食材に付加価値を付けるという、ただ米の生産をするのではなく、米の一次加工の中で付加価値をつけること。去年は米粉を作る機械を農協で入れました。行政としても当然支援はしておりますが、ここで作る米粉というのは、微粒粉というか最小の米粉が出来ますので、米粉のパンを作ったり、色々な加工をするのに、今までとは違った粒子の全く残らないという、技術は進んでおりますので、この技術を取り入れてこの地方にある資源というものをしっかりと付加価値をつけていかなければと思っています。

今週の月曜日、列車で札幌へ向かう途中、フタバ製麺さんと吉田水産さん、そして会議所の高嶋さんに会いました。夕日焼きと言って、エビとシャケと長芋をセットしたせんべいですが、

その商品のPRに東京へ行くという事で、やはりこの地域の食材を活していくことがこれから大切だと思っておりましたので、私は江別にある食科研と先日協定を結びました。留萌にある食材を新たな加工をして活かしていけないか。今食科研には加圧式という蒸気を加圧して魚でも、野菜でも圧力をかけることによって鮮度を保持するという、そういう機械を開発しております。その研究も昨年から職員の方にさせています。さらには今月19日にキャス冷凍という、冷凍する時に細胞膜を破壊しないように波動を与えて中から凍結させるという新たな冷凍技術です。今、自治体では海士町というところがキャス冷凍を取り入れており、イカの産地でキャス冷凍を使い東京の居酒屋などへ出荷しているとテレビでやっておりました。そのキャス冷凍の社長さんに留萌に来て頂いて、19日10時から人材開発センターで講演をしていただく予定となっております。北海道立試験場で、加圧式の蒸気、そしてキャス冷凍方法を組み合わせる事によって何とかこの地の食材を新鮮で、そして味が落ちない様な保存が出来ないか。留萌の甘えびを冷凍し3ヶ月、6ヶ月食味が落ちなければ、たくさん取れる甘えびを調整出荷する事で、ある意味ではコンビニにまでお刺身を提供出来ると思います。そういう仕組みを考えていかなければならないと思います。行政としてモデル的に進め、色々な試験をしなければなりません。利用していただくためにも私共も積極的に取り組んでいきたいと思っております。

(次週に続く)